

19 わたしたちは無償でいのちを受けました。いのちを得るのに支払いはしていません。だからわたしたちは皆、何ら期待せず、与えることができるのです。助ける相手に見返りを求めることなく、よいことができるのです。 <FT140>

【写真】津波でのボランティア作業 ©カリスタス第三

22 教会としてわたしたちが歩んでいるシノダの旅は、もっとも弱い立場にある人々——大勢の移住者や難民もそこにいます——を、兄弟姉妹として愛を注ぎ配慮すべき、旅路の特別な仲間と見るよう促しています。第109回世界難民移住移動者の日 教皇メッセージ「移住か」とどまるかを選択する自由」>

【写真】北極へ戻る30人の難民(スーダン) ©Caritas Internationalis

20 必要なのは、さまざまな表現手段と社会参画です。教育は、人間一人ひとりが自分の将来の設計者となるためにあるのです。わたしたちは、尊重することの大切さ、いかなる道にも受け入れられる愛、その人の考えや思いや習慣がどんなものであっても、またどんな罪があろうとも、すべての人の尊厳を第一にすること—それらを生き、教えるのです。<FT187, 191>

【写真】チタタココン丘聖地帯(バンラテラテラ)の小学校で、新しい教科書を手にして遊ぶ子ども ©Caritas Bangladesh

23 すべての人は兄弟姉妹。この主張は、それが抽象にとどまらず肉を得て具体化する、幾重もの課題を提示してわたしたちに考えを改めさせ、新たな視野をもって新たな対応を展開するよう突き動かします。<FT128>

【写真】国際カリスタス総会2023の公式ロゴ。テーマ「家へあの新しい道をひらく」(既訳) ©Caritas Internationalis

24 わたしたちは、仕える教会、家から出ていく、聖堂から出ていく、香部屋から出ていく教会になりたいのです。いのちに寄り添い、希望を支え、一致のなるようになるために、橋を架け、壁を壊し、和解の種を蒔くためにです。<FT276>

【写真】カリスタススタッフと遊ぶトルコ地震で被災した子どもたち ©Caritas Morocco

24 よいサマリア人の物語は繰り返されます。イエスは、人間の心のいばしょんよんよんところを信頼しておられます。だからこのたとえ話をもって、愛にとどまらずに、傷ついた者を立ち直らさせ、その名にふさわしい社会を築き上げるようにと、励ましておられるのです。<FT171>

【写真】トルコ地震で被災した子どもたちが抱いた袋 ©Freza Franciscan/Caritas Internationalis

援助実績一覧(2023年1月1日～9月30日)	援助地域	援助活動名	援助団体	援助額(円)
国際カリスタス緊急支援	南スーダン	紛争-洪水被災民に対する緊急対応-早期復興支援-食糧支援	カリスタススーダン	2,623,400
	南スーダン	ウーウ、マワカール、ジュムにおける難民キャンプ内への迅速な対応	カリスタススーダン	1,456,900
	ベナン	2022年洪水への対応	カリスタスベナン	1,427,100
	中央アジア	中央アジアの6つの国における難民キャンプへの対応	カリスタス中央アジア	1,427,100
	パキスタン	洪水からの復興と再建プロジェクト	カリスタスパキスタン	1,451,000
	イエメン	カリスタス緊急支援2023	カリスタスベナン(イエメン)プロジェクト	1,342,900
	ハンガリー	ミンチーからの強制移住者のための緊急対応2023	カリスタスハンガリー	1,342,900
	エルリア	平定への対応(強化と家の安全)プロジェクト(3年目)	CAFOD	1,467,700
	マラウイ	サイクロンフィリチ/材料プロジェクト	カリスタスマラウイ	1,490,900
	マダガスカル	熱帯低気圧(フェニオン)とシリア難民に対する緊急対応	カリスタスマダガスカル	1,492,800
モザンビーク	サイクロンフィリチと洪水被害対応	カリスタスマザンビーク	1,492,800	
ルワンダ	洪水で被害を受けた難民の人々への復興と社会復帰支援	カリスタスルワンダ	1,596,500	
インド	サイクロンモトによる被災影響を受け、いる人々への人道支援	カリスタスインド	1,586,900	
インド	インド北東部の危機的状況にある人々の権利擁護の強化	カリスタスインド	793,550	
ブルキナファソ	難民世帯(元IDPおよび居住世帯)に対する緊急対応と生活支援	カリスタスブルキナファソ	1,604,300	
チリ	東部のスーダン難民、チリ帰還者、ホストコミュニティに対する緊急対応	カリスタスチリ	1,608,900	
パネマ	長引く乾燥の影響を受けている人々への人道支援	カリスタスパネマ	1,590,500	
その他アジア	災害、人道危機復興支援、事件	カリスタスその他アジア	3,178,200	
ウクライナ	ウクライナからの強制移住者のための緊急対応 2023年	カリスタスウクライナ	28,472,000	
ウクライナ	シロウチカ(ハリウ)リレーションセンターの設立	カーキヤン/イェボ/プロジェクト/ウクライナ教会	3,217,800	
チリ	ウクライナからの難民救済のための緊急対応	カリスタスチリ	7,554,500	
スロベニア	ウクライナからの難民救済のための緊急対応(継続)	カリスタススロベニア	7,932,500	
モルドバ	紛争被害者への多角的支援	カリスタスモルドバ	7,932,500	
トルコ	地震緊急人道支援	カリスタストルコ	7,255,000	
トルコ	地震緊急人道支援	カリスタストルコ	22,392,000	
トルコ	地震緊急人道支援	カリスタストルコ	7,867,500	
国際カリスタス緊急支援	イラク	コロナ禍のバグダッド及びアムラーブにおける脆弱な世帯への生活・精神衛生支援	カリスタスイラク	1,294,100
	バングラデシュ	多難地域にある児童福祉施設等への食糧支援プロジェクト	フンドメント/TAMA	1,700,000
	東スーダン	新型コロナウイルス感染症の影響を受けた生活困窮者に対する食糧支援事業	ソルベム多難	1,000,000
	さいたま市	新型コロナウイルス感染症対策事業	期傾こども食堂	890,700
	大阪府	和歌山大学Healing Place デイケアセンター	和歌山大学Healing Place デイケアセンター	1,000,000
	大阪府	安全居住と持続可能な福祉事業 フェーズ2	カリスタス大阪府	6,470,500
	大阪府	チタココン丘陵地帯における脆弱な世帯への教育プロジェクト	カリスタス大阪府	6,264,091
	大阪府	ナショナルカリスタスと教団カリスタス設立支援	カリスタス大阪府	2,717,000
	大阪府	バキスタン/ウクライナからの強制移住者生活支援プロジェクト強化支援	カリスタスバキスタン/ウクライナ	4,443,028
	モンゴル	2023年相模原地区支援	カリスタスモンゴル	2,107,050
国内援助(一編)	熊本県	熊本県立大学との連携による防災プロジェクト	カリスタス熊本県	4,916,450
	熊本県	熊本県立大学との連携による防災プロジェクト	カリスタス熊本県	1,510,900
	熊本県	熊本県立大学との連携による防災プロジェクト	カリスタス熊本県	1,624,217
	熊本県	熊本県立大学との連携による防災プロジェクト	カリスタス熊本県	1,705,011
	熊本県	熊本県立大学との連携による防災プロジェクト	カリスタス熊本県	4,759,950
	熊本県	熊本県立大学との連携による防災プロジェクト	カリスタス熊本県	4,339,800
	熊本県	熊本県立大学との連携による防災プロジェクト	カリスタス熊本県	2,938,000
	熊本県	熊本県立大学との連携による防災プロジェクト	カリスタス熊本県	6,679,527
	熊本県	熊本県立大学との連携による防災プロジェクト	カリスタス熊本県	2,919,800
	熊本県	熊本県立大学との連携による防災プロジェクト	カリスタス熊本県	5,000,000
国内援助(二編)	仙台教区	福島県南相馬市周辺における被災者支援事業「国済者支援」	カリスタス仙台教区	3,751,711
	仙台教区	仙台教区 聖い10年、聖い10年	カリスタス仙台教区	300,000
	さいたま教区	日本在住のアフガニスタン人の共生社会を構築する活動	日本アフガニスタン支援の会	2,000,000
	東京教区	異文化・多世代間交流を土台にした、黒日本大震災被災地支援	地球対話ラボ	5,000,000
	東京教区	犯罪に巻き込まれた人々の支援	liner7	1,000,000
	東京教区	第一ふたりの養育環境継続支援事業	葡萄の實	2,000,000
	東京教区	第一ふたりの養育環境継続支援事業	葡萄の實	2,000,000
	東京教区	第一ふたりの養育環境継続支援事業	葡萄の實	2,000,000
	東京教区	第一ふたりの養育環境継続支援事業	葡萄の實	2,000,000
	東京教区	第一ふたりの養育環境継続支援事業	葡萄の實	2,000,000

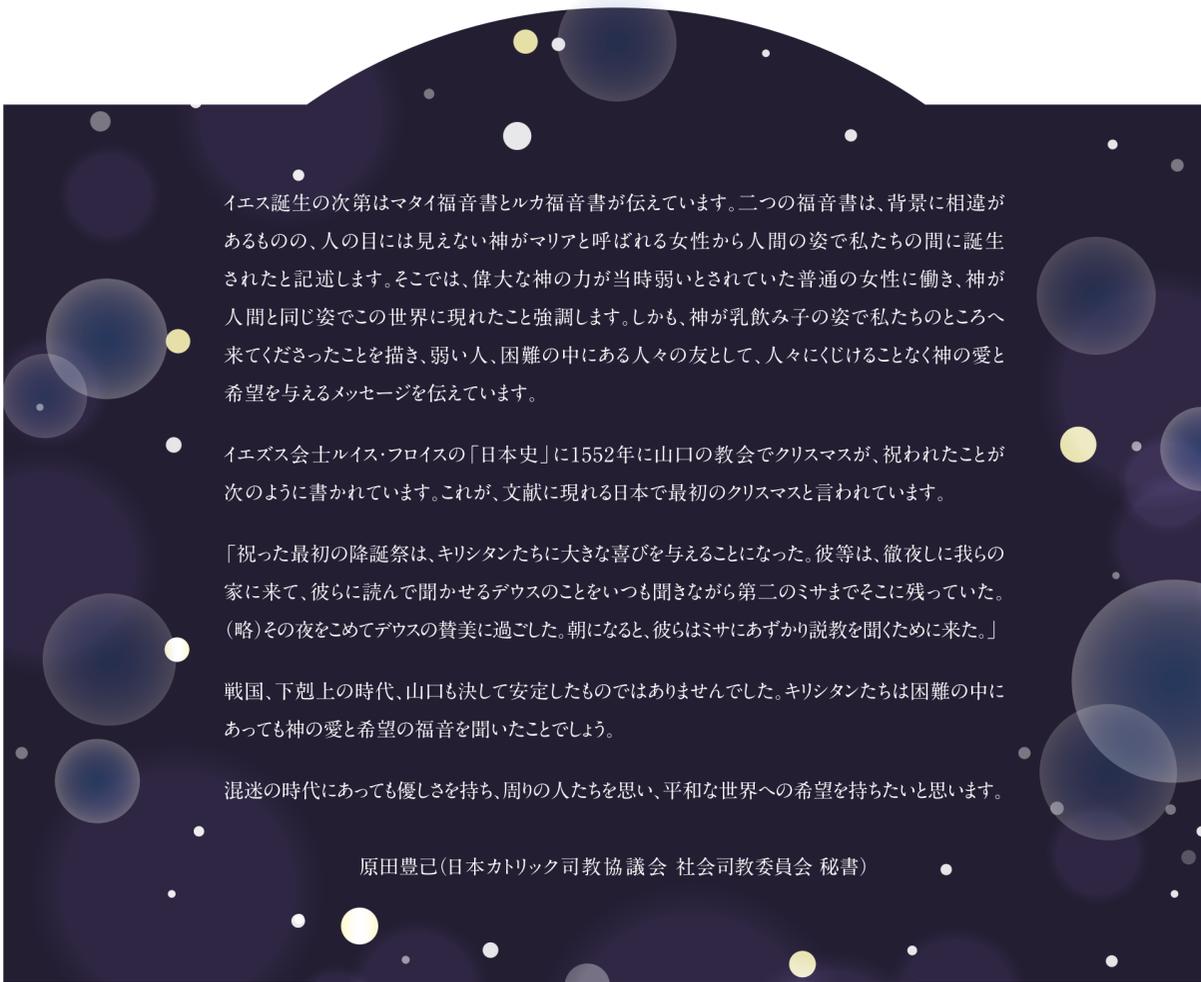
### 編集後記



今年も皆さまとともに待降節を迎えました。日頃よりカリスタ活動にご理解ご協力を賜り、ありがとうございます。ポストコロナで変容しつつ日常を取り戻す日々のなか、国内外の災害、世界各地の難民・避難民、生きづらさを抱える人々は更に増え続ける一年でした。この「We are Caritas」発行を通じて、私たちが「ともにいる」ことが心のチカラとなり、私たち一人ひとりが繋がっていくことができますように。

**We are Caritas** No.28(2023年冬号) 通算発行番号No.334  
郵便振替番号 00170-5-95979  
宗教学法人カトリック中央協議会 カリスタスジャパン  
発行人 成井大介  
〒1135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館  
TEL:03-5632-4439 FAX:03-5632-4464  
Email:info@caritas.jp URL:https://www.caritas.jp

https://www.facebook.com/caritasjapan



イエス誕生の次第はマタイ福音書とルカ福音書が伝えていす。二つの福音書は、背景に相違があるものの、人の目には見えない神がマリアと呼ばれる女性から人間の姿で私たちの間に誕生されたと記述します。そこでは、偉大な神の力が当時弱いとされていた普通の女性に働き、神が人間と同じ姿でこの世界に現れたこと強調します。しかも、神が乳飲み子の姿で私たちのところへ来てくださったことを描き、弱い人、困難の中にある人々の友として、人々にくじけることなく神の愛と希望を与えるメッセージを伝えていす。

イエズス会士ルイス・フロイスの「日本史」に1552年に山口の教会でクリスマスが、祝われたことが次のように書かれています。これが、文献に現れる日本で最初のクリスマスと言われています。

「祝った最初の降誕祭は、キリシタンたちに大きな喜びを与えることになった。彼等は、徹夜に我らの家に来て、彼らに読んで聞かせるデウスのことをいつも聞きながら第二のミサまでそこに残っていた。(略)その夜をこめてデウスの賛美に過ごした。朝になると、彼らはミサにあずかり説教を聞くために来た。」

戦国、下剋上の時代、山口も決して安定したものではありませんでした。キリシタンたちは困難の中にあっても神の愛と希望の福音を聞いたことでしう。

混迷の時代にあっては優しさを持ち、周りの人たちを思い、平和な世界への希望を持ちたいと思います。

原田豊己(日本カトリック司教協議会 社会司教委員会 秘書)

We are Caritas 28号は、クリスマス特集号となります。内面には「カリスタスジャパン 祈りのリース」として、本年度のカリスタスジャパンの支援先に関する写真を飾ったリースを縦型に配置しています。リースは、12月1日から24日までのアドベントカレンダー形式となっており、リースの下には、回勅「兄弟の皆さん」(FT)の言葉\*や、回勅を実践している人々の姿や話を掲載しています。すべての兄弟姉妹が、ともに、よき主のご降誕祭と新年を迎えることができますように…。

\*抜粋とし、中略、「」等の省略、項目内の順序の入れ替えをしている箇所があります。





ここにあなたが思う大切な人にもって、メッセージ、ソーシャルメディア、記事、写真、動画を共有しよう

# TOGETHER WE 2023

カリタスジャパン 祈りのリース

希望は大胆であり、個人的な快楽を、視野を狭めてしまふ小さな安全や補償を、超えるものです。それは、人生をより美しく、尊厳あるものとする、大きな理想に開かれるためのものなのです。希望のうちに歩みましょう。<FT155>

【写真】子どもたちの歌（香川県高松市）で出会ったお友だちの笑顔  
© @ashinuki/Caritas Japan

わたしたちは、他人に、とりわけいばらの弱者に対し、無関心でいる誘惑に取り巻かれていることを知る必要があります。我々が社会において、もっとも弱く弱い人々に寄り添い、世話をし、支えることには無知なのです。<FT164>

【写真】2月1日に起きたトルコ南東部地震で重傷を負った子どもたちに被災したカリタスシリア  
© Caritas International

社会平和は、骨の折れる手仕事です。重要なのは、出会いのプロセスを、速い受け入れられることのできる民を築くためのプロセスを生み出すことです。子どもたちには、対話という武器を装備させましょう。出会いという磨かれた瞬間を教えましょう。<FT217>

【写真】公式で伝統音楽に合わせて踊る女性たち  
© Caritas International

ウクライナで戦争が始まったその日から、ウクライナのスタッフは、日々ためめ支援を続けています。ネットワークを広げ、ウクライナ全土(37のカリタスセンターと181の緊急避難所)、食料と飲料水などの配給からトラウマ治療や難民支援にも及んだ活動を継続しています。様々なスタッフ、昼夜を問わず戦争で被災した人々をケアし、ともにいのちの危険と向き合いながら、心血を注いで苦しみを和らげるために働いています。

【写真】難民の笑顔に涙（ウクライナウクライナのスタッフ）  
© Caritas International

未来はモトーンではなく、各人による多種多様な貢献によって実現するもの(本)です。わたしたち人種家族にとどって、皆が同じようになるのではなく、調和と平和のうちに共存すべきたと学ぶことが、どれほど必要でしょう。<FT100>

【JASA 日本アジアニスタン支援の会】

どの戦争も必ず、世界を、かつての姿よりもいっそう劣化させます。露力の犠牲者が伝える真実に意識を向け、彼らの目を通して現実を見つめ、開かれた心で彼らの話を耳を傾けようではありませんか。<FT261>

【写真】カリタスウクライナから贈られたヒマワリの種  
© Caritas Japan

いのちがあるから、きずな、交わり、兄弟愛のあるところです。人間は、余すことなく自分自身を支え、与え、育ち、自己実現も成長もなく、赤足も得られないように追いつかれています。<FT187>

【写真】高齢者や国内避難民が毎日120人ほど訪れる無料食卓（カリタスベネズエラ、ウララナ）  
© Caritas Internationalis

インド、テランガナ州のプロジェクトでは、シードボールづくりをすすめています。シードボールは種子を土で包み乾燥させたもので、虫、鳥など、種子の捕食者から守るとともに、粘土の中で栄養やミネラルを蓄えることができます。空き地や荒地にこのシードボールを投げ込めば、自然に近いかたちで芽が出て花が咲きます。森林を回復することは、気候変動に対する最も効果的な解決策です。

【写真】草で作ったシードボール © Caritas India

インド出身のSt. グレジャーは、紛争が繰り出すダングラで病院や産院、学校、農村開発センターを設立し、多くの人の生活を支えてきました。彼女は、女性や子どもを支援する理由を、女性や子どもを強くすることは、社会全体を強くすることに繋がると、語りかけます。

【写真】マラリアの熱から回復した、生後6ヶ月のマルムル君とSt. グレジャー  
© Caritas International

異なると異なる生活、文化の背景をもつ多様な人々の到来は、贈り物となるのです。若者の皆さんにたくお願ひします。自分たちの国に求むる若者に対して、彼らを危険な存在、あつかも彼らには万人が有する不可侵の尊厳がないかのように見せよとする者たちの、策略に陥ってはなりません。<FT133>

【写真】リスボンで行われたワールドユースデーに参加した、カリタスユースのメンバー © Caritas Internationalis

社会でのいばらの弱者は、当たり前前にならなくなった不公平によって、幾重にも傷つけられています。たとえ近くにいること、それによってしか、今日の貧しい人々の価値観、彼らの正当な望み、そして彼らなりの信仰の生き方を、深く理解することはできません。<FT234>

【写真】カリタスウクライナから配られた新鮮なパンを受け取る男性  
© Caritas Internationalis

干ばつが繰り出さる北西部のエル・ボル村では、女性や少女たちが水を汲むために30-40キロを歩き、ほぼ枯れた井戸で4日ほど過ごす。このことが特に少女たちの教育の機会を奪い、早く結婚してしまう可能性を高め、人生に致命的な影響をもたらします。カリタスが協働して建てた給水所では、ボタンを押すだけで直接水を汲むことが可能になり、女性に安心を与えるだけではなく、550世帯の入浴、洗濯、家畜の飼育に使われています。

【写真】Sebastian Haury/Caritas International © Caritas International

3 ジャバワカンカイのシタ・ダカルさんは、家庭菜園の作物とマレーシアで働く二男からの仕送りで7人の家族を支えています。カリタスナールの「総合的病害虫管理トレーニング」に参加後、家庭菜園を拡大農場にも、水田耕作も拡大しました。同時に水牛やヤギや牛を飼育してミルク販売も始め、一家の収入は増え、安定しています。今では息子たちも、外国に行く代わりにナールで生計を立てようと考えています。

【写真】背中に作物を手にするシタ・ダカルさん  
© Caritas Nepal

自由、相互尊重、連帯という価値観は、ごく幼少期から伝えることができます。わたしたちには、すべての人が尊厳をもって生き、十全な発達のための適切な機会が得られることを保障する責務があります。<FT114, 118>

【写真】カリタスモンゴリアが運営するデイケアセンターで、保護者から手作りの材料をプレゼントされた児童と子ども  
© Caritas Mongolia

だれも除外されず、また道に倒れた人のそばにいないようにしなければなりません。女性であるがゆえに権利が制限されることが許されないのと同じく、生まれた場所や住んでいる場所で、尊厳ある生活や発展のための機会が減少してしまうことも容認できないのです。<FT121>

【写真】カラチ（パキスタン）で家族活動の準備に参加する母子。女性エンパワメントが気候変動を止めよう  
© Caritas Pakistan Karachi

隣人に気づくため、また道に倒れた人のそばにいないために、どうすれば立ち直ることができるでしょうか。わたしたち自身包み込んで変える世界を大切にすることは、わたしたち自身を大切にすることです。同じ家に住む「わたしたち」にならなければなりません。<FT16, 17>

【写真】2023年1月に起こったトルコの地震で、互いの尊厳を尊重する隣人たち  
© Caritas Internationalis

他の痛みにも無関心で生きるといふ選択はありえません。わたしたちを「人生の隅」に放つておいてくださることを許されたい。そのことに償わなければなりません。人間の苦しみに動転するほど心乱されるべきなのです。それが尊厳なのです。<FT68>

【写真】きれいな水を汲むパルチカは難民キャンプ（パキスタン）のロヒンギアの少年 © Caritas International